

お客様こんにちは

八芳園

〒108-8631 東京都港区白金台1-1-1
☎0570-064-128 www.happo-en.com



静寂に満ちた日本庭園。秋は池の周囲を紅葉が染める

日本の美、新たな価値

四方八方、どこを見ても美しい——八芳園の由来です。自慢の庭園は、四季折々の自然と風情豊かな日本の美が結集されています。

結婚式場や宴会場として都内で抜群の知名度。でも、それだけではありません。既存事業の枠組みにとらわれない「総合プロデュース企業」を掲げ、歴史と伝統を守りながらも、次世代を見据え新たな価値創造に取り組んでいるのが、いまの八芳園の姿です。

守り続ける「ふるさと」

「何も変わらないね」。年配のお客様さまが、ゲストリレーションの橋本朱里さんに話しかけました。47年前に挙げた式。「あの時の景色



そのまま。それがうれしい」と。そんな気持ちに寄り添い「ずっと守らなければ」という思いを若い橋本さんも強くしたそうです。

2世代にわたり式を挙げるご家族は少なくありません。庭園中庭は両家記念撮影のスポット。木々の



庭園に配された古い日本建築。茶室[夢庵](左)、正門(右)

枝ぶりなど、景色を保ち続けています。八芳園の企業理念の前半は『日本のお客様には、心のふるさとを』。帰ってきた、と思える場所がここにあります。

自然あふれる回遊式庭園

ハイセンスな街として知られる東京・白金台。高台からの傾斜地に八芳園の敷地が広がります。

かつて徳川家康の側近・大久保彦左衛門の屋敷があったと伝えられます。大名屋敷の時代を経て、明治末期に渋沢栄一の従兄・渋沢喜作が所有。大正に入ると鉾山王と呼ばれ、日立製作所などの企業の礎を築いた久原房之助の手に渡ります。久原は敷地を拡張し、もとの地形や川などを活かしながら、今につながる庭園を整備しました。

敷地は約1万坪。池を中心とした回遊式の庭園には、歴史ある日本家屋や茶室、文化財的な価値がある石塔、灯籠(とうろう)などを配します。自慢の盆栽は樹齢500年以上の逸品も。

生い茂る樹木は自然をあるがま



OMOTENASHIセクション
ゲストリレーション 橋本 朱里さん



襖絵のように庭園を望む本館の宴会場(左)。緑に囲まれたチャペル(下)



カフェのランチメイン(一例)

まに。これからの季節はモミジ、イチョウなどが鮮やかに彩ります。庭園に面する本館1階の宴会場。窓からの景色はまるで襖(ふすま)絵です。

庭園を眺めてランチを

披露宴や宴席がなければ、なかなか訪ねる機会が…。そこでレストラン「Thrush Café(スラッシュカフェ)」のランチはいかがでしょう。 HALFコースは3800円(税込・サービス料別途)。広々とした窓、バルコニーから庭園を楽しめ、十分

におうちです。「ママ友の集まりなど、お子さま連れも多いですよ」と橋本さん。長引くコロナ禍の中で「『家に籠ってばかりでは…。ここなら広いお

庭もあり安心』とお運びいただいたお客さまも」と話します。

今年5月には、岸田文雄首相が訪日中のバイデン米大統領を招き、園内の料亭「壺中(こちゅう)庵」で非公式日米首脳夕食会を催しました。このニュースで、欧米系の方の関心が高まったといいます。企業理念は後半『海外のお客様には、日本の文化を』と続きます。インバウンドの回復も期待される所です。

全国と連携する新拠点

おしゃれなショップやカフェなどが並ぶ白金台プラチナ通り。2020年8月、ここに新拠点を開設しました。ポップアップ型ショールーム「MuSuBu(むすぶ)」。新たな事業展開の一つが、社会貢



「MuSuBu」のイベント

献や地域活性化を目指した全国各地の自治体との協働・連携です。地産品を使った商品企画、イベントプロデュースなどに取り組んでいます。

生産者の想い、ひとつひとつの商品の物語・価値も伝えます。地域ごとにフォーカスした、様々なイベントが週替わりで。アンテナショップとはちょっと違った商品を探しに、足を運んでみませんか。

諸課題しっかりお手伝い

施設担当の中野賢太郎さんは「一生に一度の場。照明や音響など支障があっては」と、日々のメンテナンスの重要性を話します。電気火災が大敵の日本家屋は「意匠にこだわりがあり、作業環境は楽ではありませんが、点検を怠らず予防保全に努めています」。

電気工事店スタッフが確認に訪れ、当協会の担当検査員が加わった3者協議も。「柔和な人柄で、気軽に相談できます」と中野さん。電気機器は増加基調で、設備更新、省エネなど課題はいろいろ。当協会は、今後もこれら電気にかかわる諸課題解決へ、しっかりとお手伝いして参ります。